

事業報告

平成27年度の小豆島は、観光協会データ（1月—12月）から前年比で観光客数103.8%（40,363人増）の1,093千人、宿泊人数で107.1%（28,837人増）の437千人となりました。

小豆島ふるさと村は、宿泊人数で114.4%（3,247人増）売上は予算比98.6%（▲6,151千円）、前年比109.7%（+32,648千円）となりました。具体的には、宿泊課が好調、事業課が苦戦の構図になっており、特に「道の駅」での物販が大きく予算割れしたこと（予算比▲10,000千円）が予算未達の原因となりました。又、最終利益目標8,100千円には届きませんでした。当初目標である、基金へ5,000千円、税引き後利益5,000千円（結果5,746千円）は達成出来ました。

さて、27年度を改革の年と位置づけ仕事の見直しを行いました。

例えば、2カ所の厨房を集約して原価を1.5%下げ、団体昼食を宿舎、「道の駅」共同で取り込み食事売上、喫茶売上を前年比108.5%、13,700千円の売上をプラスすることが出来ました。又、地元農家から直接仕入れを行い、地産地消、旬の朝どれ新鮮野菜として提供開始、「手延べそうめん館」の協力で生こびきうどんの提供も始めました。

売店においては、現場ごとに商品、サービス、陳列、受け入れなど変化の兆しが現れてきました。料理も若手スタッフの加入で和食中心のメニューから和洋食、創作料理など多様なニーズに応える体制が出来つつあります。これも各人が目標を持ち、課題を見つけ、改善のための行動が出来ようになってきたことが要因と捉えています。

厳しい環境の中ですが一筋の光が見えて来たように思います。今後が楽しみです。

28年度は、瀬戸内国際芸術祭開催の年であり、国内外から多くのお客様が小豆島にお越しになります。この機会に10年先、20年先を見据えた本来のふるさと村のあり方を検討すること、いままで出来ない、無理と考えていたことに挑戦すること、若手の意見、アイデアを吸い上げ新しい商品、サービスを提供していきます。

更に収益率を高めることで修繕、更新のタイミングを早め、独自の判断で着手出来る仕組み作りに挑戦します。

「失敗を恐れず果敢に挑戦する」を28年度テーマに将来に繋げる大事な1年と考えて数字目標をしっかりと捉えて、前進すること、結果を残すことに全力を尽くします。

しかし、根底には安全・安心を一番に危機管理、予防管理を常に意識した施設運営を徹底して行って参ります。

小豆島ふるさと村がお客様から、地元からなくてはならない施設、いつまでも支持される施設として更に発展できるようにスタッフ一同頑張参ります。